

原野里づくり計画



成道寺

平成13年3月

原野里づくり協議会

目 次

I 地区の現況と目標

(1) 地区の現況	1 ～ 2 ページ
(2) 計画地区の課題と方向	2 ～ 3
(3) 計画目標と方針	3 ～ 4

II 里づくり計画

1 農業振興計画

(1) 生産基盤の整備	4
(2) 地域農業振興の担い手としての集落営農組織の育成	4
(3) 地域の営農	4
(4) 生産組織の拡充	4

2 環境整備計画

(1) 下水道の整備	4
(2) 道路の整備	5
(3) 地域づくり活動（お祭り等を含む）	5

3 土地利用計画

(1) 農村用途区域の設定	5
(2) 個別的土地利用計画	5
(3) 道路の拡幅をねらいとした申し合わせ	5

4 景観の保全及び形成に関する計画

(1) 農村景観	5 ～ 6
(2) 自然景観	6
(3) 教育・文化	6

5 計画地区と市街地との交流に関する計画

(1) 体験農業、観光農業等を通じた交流計画	6
(2) 地域特産物の育成と販売	6

原野里づくり計画

「みんなが大切！ —— 豊かな人と地域を育む ——

里づくり計画」

I 地区の現況と目標

(1) 地区の現況

- ① 計画対象地区は、平成10年7月5日に設立（市認定平成10年8月13日）された別図の原野里づくり協議会（原野集落）の区域とする。
- ② 当地区の南東及び東側は、市街化区域と隣接している。この区域はかつては原野の一部であったが、現在は住宅団地として大きく変貌をとげている。
- ③ 当地区は、北区山田町のほぼ中央に位置し、国道428号線（新道）を挟んで南北に大きく2区分される。
 - ・ 南側は、大規模住宅団地としての計画が予定された農地及び山林が広がっている。
 - ・ 北側は、旧国道の両側を挟んで農地と住居が密集し、通行に支障のある狭い生活道路が全体に分布している。また、農地の過半は大正時代に耕地整理が行われ一部換地未了の農地である。
- ④ 東西に流れる山田川（志染川）は吞吐ダムにより形成された衝原湖に流れて行くが下水道の整備は公共下水道直結型が予定されているものの、現在は未整備である。なお、溪流を有する支流の柏尾谷川は自然休養村のキャンプ場や飯ごう炊さんの場になっている。
- ⑤ 当地区の北側には、丹生山があって緑地の保全、育成及び市民利用に関する条例によって「みどりの聖域」に指定されている。

また、みのたにグリーンスポーツホテルがある。
- ⑥ 当地区は、西国街道の裏街道として、かつては八部郡山田村の中心として栄えたところで、天津彦根神社、八阪神社、巖島神社、成道寺などの文化財が存在し、神事祭礼として弓引き神事、夏祭り神事、新嘗祭及び餅まきが、成道寺においては、六斎太鼓念佛講が伝統的行事として継承されている。
- ⑦ 1995年国勢調査及び農業センサスによれば
農家人口（349人）は集落人口（646人）の54%、農家戸数（71戸）は総世帯数（159戸）の45%を占める。農家人口及び農家戸数割合はあまり大きな変化はない。農家の構成は、専業農家1戸（1.4%）、第1種兼業農家5戸（7%）、第2種兼業農家64戸（90%）と第2種兼業農家が大半となっている。

- ⑧ 農業経営は、一戸当たり平均耕作面積が48aと零細で、自給的農家がほとんどであり、効率的とはいえない農業を営んでいる。(農業機械保有台数は耕耘機66台、田植機56台とほとんどの農家1戸につき1台を保有している。)
- ⑨ 集落の農業生産についてみると、大半が酒米を含む水稻であり、一部で「さつまいも」、「菊」、「栗」等がある。都市部に隣接する立地を生かして、市民いも掘りや貸農園等が行われているが、全体に農業は低調であり水田での生産調整に苦慮している。

原野地区農業の概要

(資料：農業センサス等)

	給世帯数 (戸)	総人口 (人)	専業別農家数 (戸)				農家人口 (人)	農業従事状態世帯員数(男)			農業従事状態世帯員数(女)		
			総農家数	専業	第1種兼業	第2種兼業		自家農業のみ	自家農業が主で、兼業が従	自家農業が従で、兼業が主	自家農業のみ	自家農業が主で、兼業が従	自家農業が従で、兼業が主
85年	167	666	74	2	7	65	381	25	3	77	67	-	13
90年	162	655	72	2	-	70	373	29	3	83	77	3	15
95年	159	646	71	2	5	64	349	26	4	75	78	1	9

	経営耕地面積 (a)				主要作物別収穫面積 (a)				家畜飼育戸数・頭数			
	合計	田	畑	樹園地	稲	野菜	花	飼料作物	乳用牛戸数	肉用牛戸数	乳用牛頭数	肉用牛頭数
85年	3,529	3,292	199	38	2,967	168	40	20	1	6	1	2
90年	3,557	3,446	40	71	2,259	212	32	35	1	2	1	2
95年	3,436	3,333	23	80	2,061	207	58	-	-	-	-	-

(2) 計画地区の課題と方向

- ① 計画地域は、旧山田村でも最初に開けた地区であり、神社の多い歴史的な雰囲気をもつ地区であり、この歴史的景観と伝統文化をどう保全活用するかが大きな課題である。(天津彦根神社、八阪神社、八幡神社があり、成道寺の大般若・六斎太鼓念仏や安養寺跡・福昌寺跡などの史跡も多い。)
- ② 三ノ宮まで新神戸トンネルを経由すると自動車でも15分と都市域にも近く、又、北神急行や神戸電鉄、神戸市バスにより市街地への交通の便が良いため、都市と農村との交流の場としての一層の活用が考えられる。
- ③ 具体的に、都市住民に対するいも掘り、いちご狩り、もぎとり野菜等の観光農業や貸農園、柏尾谷リバーパーク等をもっと活用することも検討すべきである。
- ④ 近隣住宅団地には、大量の新鮮な農産物の需要がある。事実、国道に面した民間経営の農産物食料品店はかなりの盛況を呈しており、この立地条件を活用していく必要がある。

- ⑤ 兼業農家が大半でまとまりに欠けるが、まず、人づくり・組織づくりを
図りながら里づくりの課題と方向を検討すべきである。

(3) 計画目標と方針

ふるさとの歴史や自然に誇りをもって、生活環境の保全と地域の発展を図りつつ老人と若者が一緒に住める地域づくりを目標とする。

このための、キャッチフレーズとしては

『みんなが大切！ —— 豊かな人と地域を育む —— 里づくり』

とする。

このみんなとは、

人・自然・若い人も含め この地域に住む人、訪れる人を指す。

整備方針としては、下記のとおり。

- ① 地域に愛着と誇りをもつことが地域活性の第一条件である。又、若者の力は地域の活性化に不可欠である。このため、既存の民具農具館を活用し、小中高生も含めた若者の手による地域資料館作りを通じて、マスコミも含めた本地域の広報活動を強化する。できるだけ「手作り」する過程での各自の自覚こそが、地域への愛着と誇りを生むことになるからである。
- ② 豊かな生態系を育む山林や河川も含めた地域環境保全計画
従来から行われている住環境整備や美化キャンペーン、ゴミ対策だけでなく、集落下水道の整備はもちろんのこと、例えば、地区の道路を「花水木（はなみずき）街道」と名付けて、道路脇に花水木を植樹し、周辺に波及できるような本地区特有の景観を積極的に生み出すことが大切である。
これは地区の結束を固めることにもつながる可能性があり、さらに、国道混雑時の自動車進入を制限するように警察に働きかけを行うきっかけになる可能性もある。
- ③ 小学生への農業教育の先進地域化
都市住民との積極的な交流の一環として、いも掘りや柏尾谷リバーパークを中心とした「小中学生への農業教育の先進地域」を目指す。これは、今後の若い世代に農業の重要性と自然環境との共存を共同作業の中で教える重要な役割であり、農地のもつ公益的機能の維持を通して地域環境を保全する都市域農業経営者のほとんどに課せられる責務に近いものになる可能性がある。
- ④ 新鮮な農産物供給による農産振興策
国道南側の高層アパート群に住む多数の都市住民がもつ大きな農産物需

要と結びつけた農業生産と販売方法の戦略化を農会やJAと協力し、積極的に検討していく。

Ⅱ 里づくり計画

1 農業振興計画

(1) 生産基盤の整備

大正時代に地域の一部において耕地整理が実施されたものの、ほ場区画面積・道路（生活・生産）が狭く生活・営農に支障を生じている。これらの解決には、ほ場整備の実施が不可欠となるが、事業の実施には地域のまとまりがとれない状況にある。今後、土地の条件差を加味した換地方法を地権者間で話し合う等事業実施に伴う問題の解決策をさらに検討していく。

(2) 地域農業の担い手としての集落営農組織の育成

農村では担い手の確保が大きな課題となっているが、当集落も同様、大半がサラリーマン農家であって、兼業によって農家経済としては恵まれ、通勤しながらの休日農業によって現在では農地が荒廃化することなく保全されているものの、米価の低迷、農業機械の過剰投資等の問題が生じており、この解決法が求められている。

このため、次代を見据えた集落農業のあり方を考える中で、農作業受委託を中心とする集落営農組織の結成及びオペレーターの育成を図る。

(3) 地域の営農

① 特産物の生産販売

他産業に従事する農業後継者の定年退職後の「いきがい農業」として野菜、花き等の手のとどく生産拡大と直売を目指す。

② 直売部会

JA兵庫六甲山田支店を単位とする直売を促進するとともに、この出荷体制を確立するため直売部会を組織する。

(4) 生産組織の拡充

観光いも掘り部会の拡充と貸農園・柏尾谷リバーパーク等観光グループの再点検・活性化を進める。

2 環境整備計画

(1) 下水道の整備

地域住民が長年待ち望んだいた下水道整備が公共直結型によって平成15年から17年頃に計画されており、地域の生活環境の改善が期待される。

このため、その一日も早い実施を市に要望する。

(2) 道路の整備

農道・生活道路事情が悪く、特に朝夕の通勤通学・農繁期・火災時において苦慮している。当面、消防車が通行できる道路の確保を急ぐが、ほ場整備ができなくとも農道整備事業の導入を図る。

(3) 地域づくり活動（お祭り等を含む）

- ① 現在も、神社の祭礼や自治会・農会・婦人会・老人会などの活動に対する参加は積極的であるが、今後もより一層地域一体となった活動を展開する。
- ② 当自治会の慶弔取り決め事項（聊57年2月10日附）の再確認・再点検を行い、集落内の良い規律は遵守していく。
- ③ 毎年開催している山田自然休養村まつりの内容を充実し、建設が予定されている山田町田園コミュニティパークでの開催を検討する。

3 土地利用計画

集落内の秩序ある土地利用を図るため、次のとおり計画する。

(1) 農村用途区域の設定

〔農業保全区域〕 優良農地のまとまりを中心として散居家屋等を含めて指定している。

特に区域の変更は計画しない。

〔環境保全区域〕 里山等を主体として指定している。

特に区域の変更は計画しない。

〔集落居住区域〕 当面、区域指定計画はない。

〔特定用途区域〕 当面、区域指定計画はない。

(2) 個別的土地利用計画

① 公共的施設用地

- ・ 原野公会堂駐車場
- ・ 多目的広場等

② 活性化のための施設用地

国道428号沿いの沿道サービス施設直売所

(3) 道路の拡幅をねらいとした申し合わせ

道路の中心線から2mを確保できるよう家の建て替え、フェンス等のやり替え時に努力することを申し合わせする。

4 景観の保全及び形成に関する計画

(1) 農村景観

美化キャンペーン、ゴミ対策、下水道の整備に加え、地域の道路に「花水木」

を植栽し、地域特有の景観を作り出す。

(2) 自然景観

環境保全区域及び北側に接する「みどりの聖域」及び南側開発予定地法面・山林等自然生態系を生かした保全を図る。

(3) 教育・文化

八阪神社、天津彦根神社での弓引き神事、夏祭り神事、婦人会による戎さん等のPRを拡充する。

5 計画地区と市街地との交流に関する計画

(1) 体験農業、観光農業等を通じた交流計画

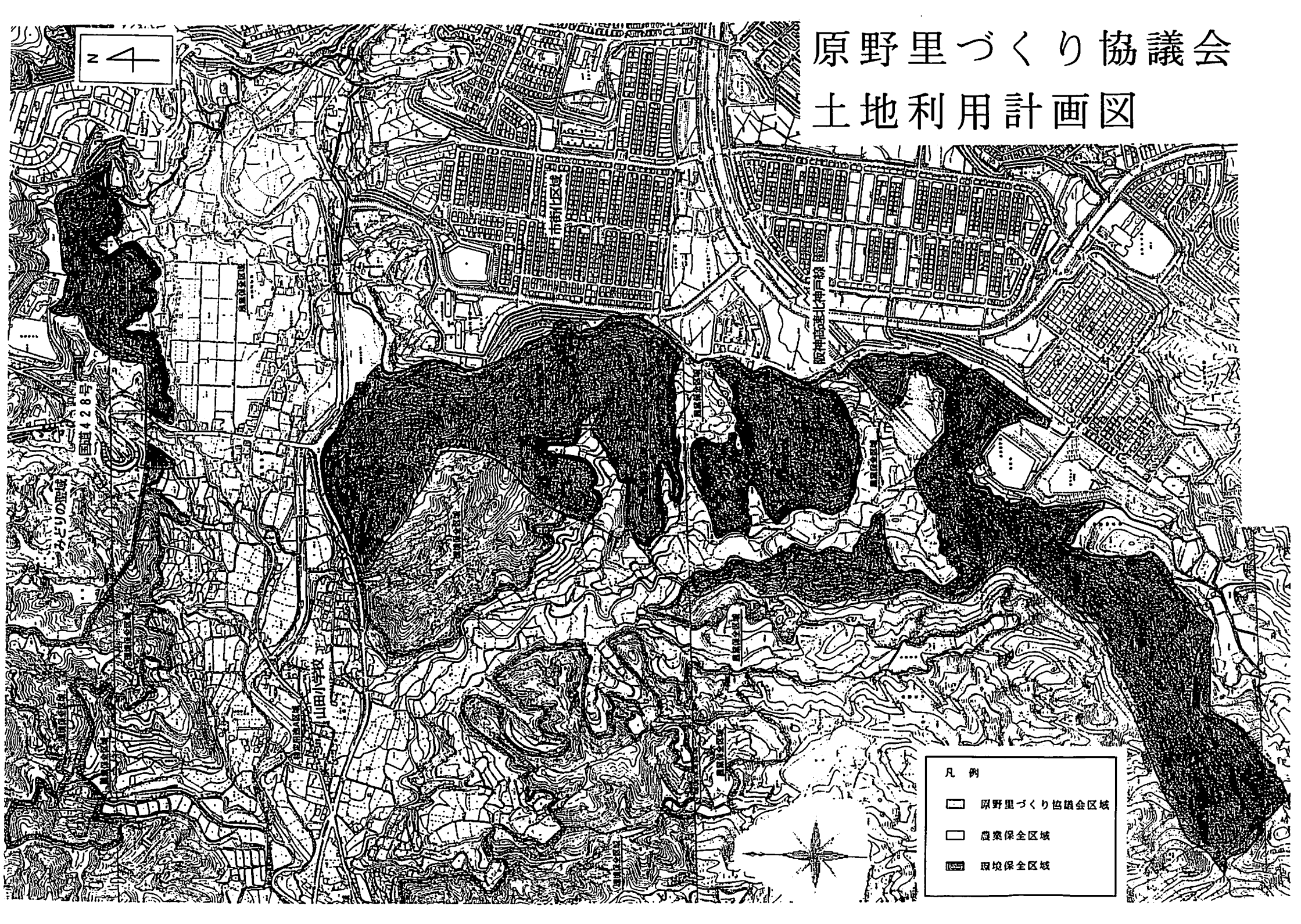
貸農園、もぎとり農園、いも掘り、柏尾谷リバーパークをさらに充実させるため道路の拡幅、駐車場の確保、トイレの整備を図ることによって都市住民との交流を活発化させ地域の良さをPRする。

また、毎年9月開催の山田自然休養村まつりとの連携を図る。

(2) 史跡を生かした良好な地域の活性化を図るため地域特産物の育成と販売のためJA兵庫六甲山田支店を拠点とした直売所の設置により都市住民との経常的な交流と地域のイメージアップを図る。

原野里づくり協議会 土地利用計画図

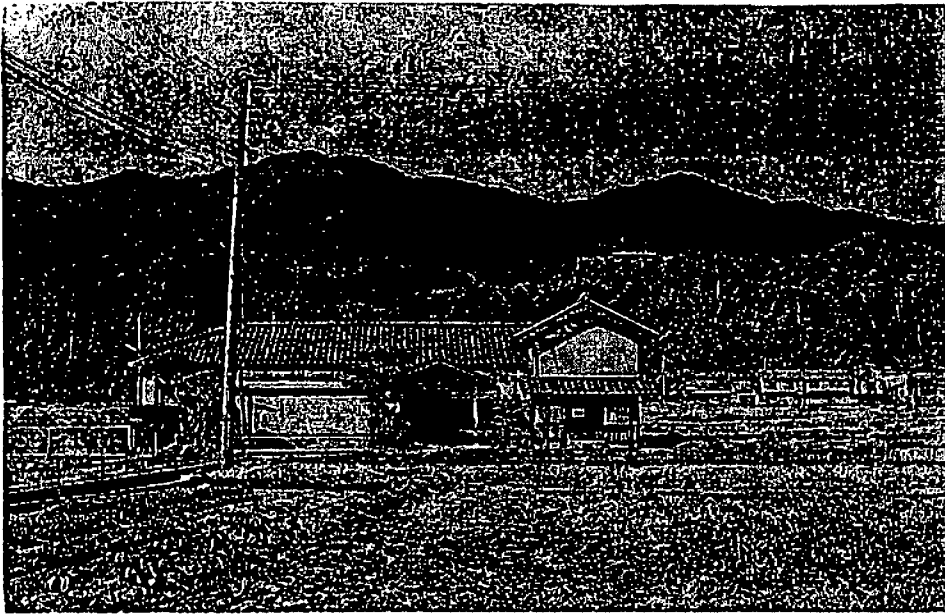
24



- 凡例
- 原野里づくり協議会区域
 - 農業保全区域
 - 環境保全区域

国道428号

山田川



原野公会堂



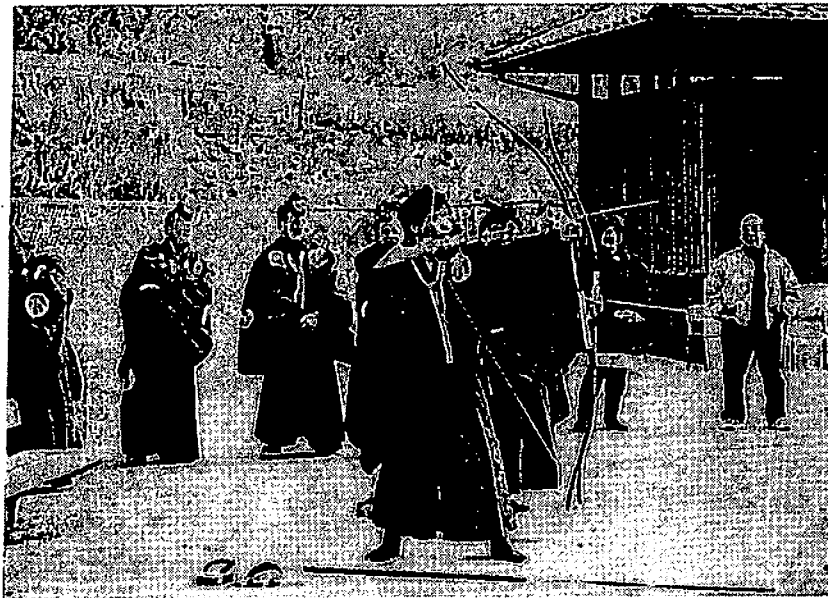
原野集落風景



天津彦根神社



八阪神社



八阪神社
弓引き神事

原野里づくり計画策定経過

助言者：内田 一徳

年月日	実施内容	参集者
平成10年6月10日	平成10年度アドバイザー派遣地区として推薦される。	
平成10年9月17日	里づくり計画策定のため、アドバイザーによって集落の現地調査	協議会長
平成10年12月24日	・ 集落の現状 課題の整理	協議会役員他
平成11年3月23日	・ 集落の現状 課題の整理	協議会役員他
平成11年5月1日	・ 内田教授より「里づくり計画」への提言 ・ 集落の将来像 ・ 策定項目の整理	協議会役員他
平成11年12月24日	・ 里づくり計画（素案）について	
平成13年3月3日	・ 里づくり協議会総会 里づくり計画の決定	協議会役員他